

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	商品券
減価償却費	発送費	備品	預り金
仮受金	支払手数料	買掛金	固定資産売却益
受取手形	減価償却累計額	給料	未収入金
他店商品券	支払利息	仮払金	手形売却損
仕入	立替金	固定資産売却損	当座借越

- 平成25年4月1日に購入した備品（取得原価¥1,200,000、残存価額ゼロ、耐用年数8年、定額法で計算、直接法で記帳）が不用になったので、本日（平成29年5月10日）¥500,000で売却し、代金は翌月末に受け取ることにした。なお、決算日は12月31日とし、減価償却費は月割りで計算する。また、減価償却費の計上も併せて行うこと。
- 仕入先山梨商店より商品500個（@¥1,200）を掛けて購入した。なお、商品の引取にかかる費用¥20,000を現金で支払っているが、仕入先山梨商店と折半することになっている。
- 得意先より受け取った約束手形¥2,000,000を取引銀行で割引き、利息に相当する金額を控除した残額が当社の普通預金口座に入金された。なお、割引時から満期日までの日数は73日、年利率4%、1年間で365日として日数計算により利息の計算を行う。
- 商品券1枚¥1,000を200枚発行し、代金は現金で受け取った。
- 従業員に対する給料¥526,000（所得税の源泉徴収税額¥24,000控除後）を当座預金口座から従業員の口座へ振り込んだ。なお、当座預金の残高は¥265,000であり、取引銀行と当座借越し契約を結んでいる。

第2問 (8点)

橋口商店の平成29年5月中の取引は次のとおりである。それぞれの日付の取引が、答案用紙に示したどの補助簿に記入されるか、該当する補助簿の欄に○印を付して答えなさい。

- 8日 仕入先志水商店より商品¥10,000,000を購入し、代金のうち¥4,000,000は当店振出しの小切手で支払い、残額のうち半分は当社振出しの約束手形で支払い、残額は掛けとした。
- 10日 8日に仕入れた商品¥200,000が品違いであったため、仕入先志水商店に返品した。なお、掛け代金と相殺することになっている。
- 16日 得意先古山商事に商品¥6,000,000を販売し、代金のうち¥2,000,000は得意先振出しの小切手で受け取り、残額は掛けとした。
- 31日 得意先古山商事より掛代金の全額が当社の当座預金口座に入金された。

第3問 (30点)

樟南商店の5月中の取引は次のとおりである。同取引を集計し、答案用紙に示す残高試算表を完成させなさい。

1. 4月末日の残高試算表

		残 高 試 算 表		(単位：円)	
現	金	1,860,000	支 払 手 形		2,000,000
当 座 預 金		2,450,000	買 掛 金		1,200,000
受 取 手 形		1,800,000	未 払 金		1,200,000
売 掛 金		900,000	預 り 金		32,000
有 価 証 券		685,000	前 受 金		650,000
繰 越 商 品		150,000	貸 倒 引 当 金		65,000
前 払 金		90,000	建物減価償却累計額		4,800,000
貸 付 金		1,000,000	備品減価償却累計額		1,200,000
建 物		10,000,000	資 本 金		9,741,000
備 品		2,000,000	売 上		14,652,000
車 両		600,000	受 取 配 当 金		60,000
仕 入		9,852,000	受 取 利 息		1,000
給 料		2,685,000			
営 業 費		1,529,000			
		<u>35,601,000</u>			<u>35,601,000</u>

2. 5月中の取引

(1) 当座預金に関する取引 (他の事項で判明するものを除く)

- ① 源泉徴収税額¥32,000の納付 ② 買掛金¥500,000の支払い ③ 手付金¥150,000の支払い
 ④ 従業員に対する給料¥580,000 (源泉徴収税額¥30,000控除後) の支払い ⑤ 売掛金¥500,000の回収
 ⑥ 貸付金¥400,000の回収 ⑦ 手付金¥100,000の受取り ⑧ 振出した約束手形¥600,000の決済
 ⑨ 営業費¥425,000の支払い

(2) 商品の購入に関する取引

- ① 掛仕入 ¥850,000 ② 手形仕入 ¥400,000 ③ 手形の裏書による仕入 ¥500,000
 ④ 小切手の振出しによる仕入 ¥200,000 ⑤ 手付仕入 ¥180,000

(3) 商品の販売に関する取引

- ① 掛売上 ¥1,000,000 ② 手形売上 ¥500,000 ③ 小切手の受入れによる売上 ¥400,000
 ④ 手付売上 ¥480,000 ⑤ 売上戻り ¥20,000 (売掛金と相殺)

(4) その他の取引

- ① 有価証券の1/2を販売し、代金¥325,000は6月中に受け取ることになっている。
 ② 備品¥800,000を購入し、代金は再来月末日に支払うことにしている。
 ③ 前期より繰り越されてきた売掛金¥20,000が貸倒れた。

第4問 (10点)

竹葉商店は、日々の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票の3種類の伝票に記入し、これを1日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から総勘定元帳に転記している。同店の平成29年5月1日の取引について作成された次の各伝票(略式)にもとづいて、答案用紙の仕訳日計表を作成しなさい。

入金伝票 No.101	
売上	100,000

出金伝票 No.201	
営業費	68,000

振替伝票 No.301	
備品	1,000,000

入金伝票 No.102	
当座預金	60,000

出金伝票 No.202	
給料	380,000

振替伝票 No.301	
未払金	1,000,000

入金伝票 No.103	
借入金	200,000

出金伝票 No.203	
仕入	140,000

振替伝票 No.302	
当座預金	150,000

入金伝票 No.104	
売掛金	350,000

出金伝票 No.204	
支払手形	200,000

振替伝票 No.302	
売掛金	150,000

第5問 (32点)

次の(1)決算整理前残高試算表と(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は平成28年1月1日から平成28年12月31日までの1年間である。

(1) 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表 (単位:円)

借方	勘定科目	貸方
256,200	現金	
800,000	受取手形	
1,200,000	売掛金	
120,000	繰越商品	
1,600,000	備品	
2,000,000	土地	
50,000	仮払金	
	買掛金	480,000
	借入金	1,200,000
	貸倒引当金	16,000
	備品減価償却累計額	500,000
	資本金	2,575,000
	売上	8,600,000
	受取地代	109,200
4,520,000	仕入	
2,400,000	給料	
240,000	支払家賃	
165,000	水道光熱費	
120,000	通信費	
9,000	支払利息	
13,480,200		13,480,200

(2) 決算整理事項等

1. 決算にあたり現金の実際有高を調査した結果、次のものが金庫に保管されていた。なお、適正な勘定科目で処理されている。
硬貨¥5,200、紙幣¥96,000
他人振出小切手¥148,000
他人振出しの約束手形¥150,000
2. 仮払金は、従業員が出張に行く際に旅費の概算払い額を処理したものである。決算日現在従業員は帰社しており、現金¥4,000を追加で支払った処理が行われていない。
3. 受取手形および売掛金の期末残高に対して3%の貸倒引当金を設定する。
4. 期末商品の棚卸高は¥96,000である。
5. 備品は耐用年数8年にわたり定額法で償却する。なお、残存価額は0とする。
6. 借入金は平成27年4月1日より、取引銀行より融資を受けたものであり、年利率3%、毎年3月末の後払いにより利息を支払っている。なお、利息の発生額はこれ以外にない。
7. 給料の見越しが¥125,000ある。
8. 地代は2月、5月、8月および11月の各初日に向こう3か月分の地代を昨年以前より受け取っている。当期に帰属しない分を繰り延べる。